四十九日体験　ツアー（初七日へ）

さて。

突然ですが、あなたはお亡くなりになられました。

今からあなたは、七日ごとに七つの裁判を受け、無事にその裁判を通過しなくてはいけません、お釈迦さまがおられる幸せな「霊山浄土」の世界へは入ることは許されません。
「浄土」の世界とは、仏さまが持っておられる国で、そこへは成仏した人しか入ることは許されません。苦しみと悲しみから解き放たれた、楽しく幸せな世界です。阿弥陀如来の世界ならば「極楽浄土」、薬師如来の世界なら「東方浄瑠璃国」という具合です。
しかし、この七つの裁判を無事に通過できないと、誠に遺憾ではございますが、地獄へとおとされてしまうのです…。
そろそろ出発の時間ですね。心の準備は良いですか？

旅の始めまず見えてきますのは、「死出の山」です。ここを歩き続けます。
岩がゴツゴツと突き出した山のすそ道を星の明かりだけを頼りに歩き続けます。
この道を七日間かけて歩いて行くと最初の裁判の法廷にたどりつきます。

裁くのは秦広王という裁判官、あなたが仏教の「五戒」を生前にきちんと守ったかについて調べを受けます、仏教の「五戒」とは①殺生をするな②盗みをするな③邪淫におぼれるな④嘘をつくな⑤酒を飲むな、の五つの戒めです、
しかし、どうですか？　なかなか人間、この五戒を誠実に護って生きている人がいるでしょうか？なかなかそんな方いらっしゃいませんよね…。
じゃあ、このまま地獄へと落ちてしまうのでしょうか？

いやいや、大丈夫です。人間の裁判にも被告を護ってくれる弁護士がいるように、きちんと死後の裁判でも、あなたを弁護して良い方へと導いてくれる方がいらっしゃいます。「不動明王」さまです。さぁ、無事に初七日の審判を通過できるよう「不動明王」さまを探してください。

不動明王

大日如来の使者としてあなたを導きます。不動とは、お釈迦様がさとりを開いた時に、様々な誘惑や魔の手を退けた強い心のように、揺るぎない心と智慧を持つことから名づけられました。この強い心と智慧で人々を導きます。

四十九日体験　ツアー（二七日へ）

おめでとうございます。無事に「不動明王」に出会う事ができましたね。これで、無事に初七日の裁判を通過できることができます。しかし、油断大敵です。二七日の裁判所に至るまでには、かの、あの世の名物、有名な「三途の川」を渡ります。とうとうと、流れる大河を向こう岸まで渡らなければなりません。橋がかかっていますが、この橋を渡れるのは善人だけ、悪人は川の中に浸かって渡るしかありません。これも罪の重さによって渡りやすい浅瀬のところと、深い急流のところがあります。川を渡る方法が三通りあるところから三途の川と名付けられました。さぁ、あなたはどこを渡るのでしょうか？

ところが、いつの頃からもう一つ増えたのです。渡し船です。

死者は渡し船に乗って川を渡ることができるのです。その渡し賃が「六文」とされています。なので、死者を葬る時は昔は一文銭を六枚入れました、今は六文銭を印刷した紙を

入れることが多いようです。

さて、「三途の川」を渡り終えると、そこに待っているのは男女二人の鬼です。男の鬼を懸衣翁(けんねおう)、女の鬼を奪衣婆(だつえば)と言います。奪衣婆(だつえば)は読んで字の如く、冥途の旅人の衣服をはぎ取ります。そのはぎ取った衣服を懸衣翁(けんねおう)が木の枝に掛けるのです。
生前の罪の重さによって服をかけた枝のしなり具合が違ってきます。

「なんだ、おまえは、こんなに枝がしなっているではないか!!」

怖いですね、その結果が後で裁判官に報告されます。第二の裁判の裁判官は「初江王(しょこうおう)」です。

あなたがみだりに生き物を殺していないかどうか「殺生(せっしょう)」の罪において裁かれます。
「遊びで生き物の命を奪ってしまったことがあるそこのあなた!!」
あぶないですね……。しかし、ここでもあなたを弁護(べんご)してくれる仏さまがいらっしゃいます。「釈迦如来(しゃかにょらい)」、お釈迦さまです。さぁ、「釈迦如来(しゃかにょらい)」に出会い無事に第二法廷(だいにほうてい)を通過してください。

釈迦如来(しゃかにょらい)

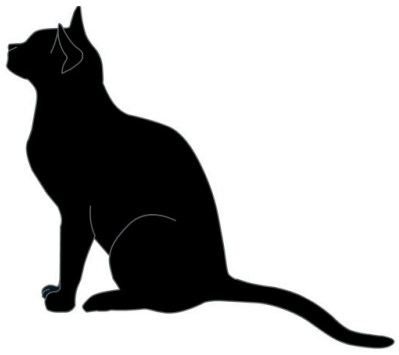
「おしゃかさま」という名前で皆さんによく知られています。

言わずとも知られた仏教の創始者(そうししゃ)です、人間が何故悩みながら、苦しみながら生きていかねばならないのか・・・。その事に悩み、人間がどのようにして苦しみと向き合ってそれを乗り越えていけばよいのかを教えとして説かれました。その教えが今日、みなさんがよく耳にする「お経」なのです

四十九日体験　ツアー（三七日へ）

おめでとうございます。無事に「釈迦如来」に出会うことができましたね。これで、無事に二七日の裁判も通過できることでしょう。

さて、三七日の裁判で待っている裁判官は「宋帝王（そうていおう）」です。



この裁判官は猫と蛇を使って、死者が生前淫らな行い、すなわち「邪淫（じゃいん）」に溺れてなかったか調べるといわれています。蛇は身体に巻き付き、猫は体をなめまわし、調べるそうですよ。「邪淫」とは何か、簡単にいいますと…。

ずばり!!不倫や浮気のことですよ。

「ドキッ!!」とされた方もいらっしゃるのではないでしょうか？「不倫は文化」なんて愚かなことを言ってる場合ではありませんよ!!　人を傷つけるとその報いは必ず自分に返ってきます。「あぁ、あんなことをしなければよかった…」　なんて後悔しても後のまつりです。

しかし、まぁ大丈夫です。　仏さまはそんなあなたも見放すようなことはありません。

ここであなたを弁護（べんご）してくださる仏さまは「文殊菩薩（もんじゅぼさつ）」さまです。

さぁ、「文殊菩薩（もんじゅぼさつ）」さまに出会い、無事に第三法廷を通過してくださいね。

文殊菩薩（もんじゅぼさつ）

「三人よれば文殊のちえ」という言葉を聞いたことがありますか？

その文殊菩薩です。獅子（しし）に乗っているのが特徴です！「智慧（ちえ）」を司る仏として人々の徳を高めて、いわゆる学問的な知識を高めるのではなく、精神的な智慧を高めることを手助けします。

四十九日体験　ツアー（四七日へ）

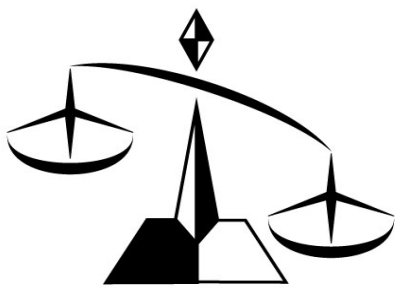
おめでとうございます。無事に「文殊菩薩」と出会うことができましたね…。

これで三七日の裁判も無事に通過できることができます。

しかし、まだまだ安心してはいけませんよ!!

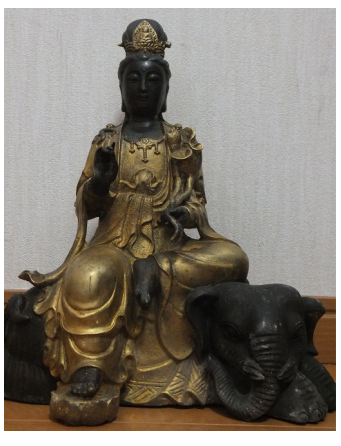
さぁ、次の四七日の裁判で待っている裁判官は「五官王（ごかんおう）」です。この裁判官は七つの秤（はかり）を使ってあなたが生前、体と口で嘘をついていないか調べます。

口でつく嘘は解るとしても、体で嘘をつくとは一体どういうことでしょうか？それは、人の行為そのものを指します。口では立派なことを言っていても、行いが伴っていなければ駄目ですね。



行為のことを仏教では「業（ごう）」と言います。最近では「あの人は業が深いから」なんて悪いイメージに使われがちですが、「業」とは人の行為そのものを意味します。仏教が一番戒められて、「大切にしなくてはいけないよ」とお説きになられているのが「業」、すなわち私達の日々の行いです。さて、ここであなたを弁護してくださる、ほとけさまは「普賢菩薩（ふげんぼさつ）」さまです。「普賢菩薩（ふげんぼさつ）」に出会い、無事に第四法廷を通過してください。

あ、ちょっと待ってください。出発するそのまえに、ここ三七日では、「地獄」がどのようなところか、あなたがたに見せてあげましょう。地獄におちると、どうなるか…。さぁ、地獄絵本の　はじまり、はじまり　です。



普賢菩薩（ふげんぼさつ）

六本の牙を持つ白い象に乗っているのが特徴です。象は長生きの動物ですので、長寿を叶えてくれる菩薩さまとしても信仰されています。

四十九日体験　ツアー（五七日へ）

おめでとうございます。無事に、「普賢菩薩」にも出会うことができましたね。これで四七日の裁判も通過することができますね!!

しかし、油断してはいけませんよ…。五七日の裁判で待っていますのはかの有名な「閻魔王（えんまおう）」ですよ。小学校の先生が生徒の行いを記録するノートをエンマ帳と言いました。皆が喜ぶ事をした、意地悪をした、授業で何回発表した…。様々な振る舞いをメモします。時にはテストの成績、宿題の成績も、「そんな悪い事ばかりしてたら、エンマ帳にかきますよ」生徒を叱るときに先生の口から出てくることもしばしば。

閻魔王（えんまおう）は初七日の秦広王（しんこうおう）から四七日の五官王までが審査した書類をもとに判決を下します。閻魔王は死後の世界の裁判官で支配者とも言われます。閻魔王の所には「浄頗梨（じょうはり）の鏡」という八枚の鏡があって、あなたが生前に行った善い行い、悪い行いの全てが映し出されて裁判の対象になり、最終的地獄に行くのか、浄土の世界にいくのか、どこの世界にいくのか決定されるのです。

あの世の「最高裁判所」と言っても過言（かごん）ではありません。さぁ、ここであなたを弁護してくださる仏さまは、おじぞうさん、として有名な「地蔵菩薩（じぞうぼさつ）」です。

さぁ、「地蔵菩薩（じぞうぼさつ）」に出会い、無事に第五法廷を通過してください。

地蔵菩薩（じぞうぼさつ）

お釈迦さまが亡くなりになられた後、弥勒菩薩（みろくぼさつ）が現れるまでの間に、人々を救うために現われた救世主として崇められています、地獄界・餓鬼界・畜生界・修羅界・人間界・天上界、すべての世界の人を救うためにどこの世界でも現われて救ってくださいます。親しみが持たれるように、お坊さんの姿をしています。

四十九日体験　ツアー（六七日へ）

おめでとうございます。無事に、「地蔵菩薩」に出会う事ができたようですね。これで五七日、閻魔王の裁判も通過することができますね!!

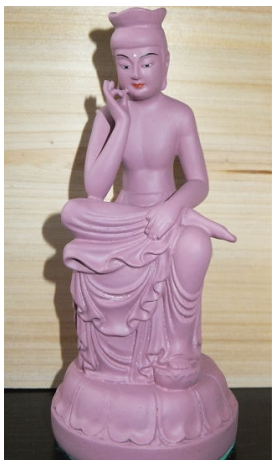
六七日で待っている裁判官は「変成王（へんじょうおう）」、変成王は、四七日の時、五官王の秤（はかり）で調べた事、五七日の閻魔王の鏡がはっきりさせてことによって、罪があればその罪を責め立てて、善があればその福を益々勧めるように勧めます。

こちらの世界での裁判も検事と弁護士が法廷で争い、裁判官の判決を仰ぎます。異議があれば申し立て上申となり、長いものは何十年と裁判で争う事になります。それだけ判決と言うものは難しいことなのでしょう。亡き後、何十年も争う事がないように、何十年も浮いたまま、ということがないように、七日ごとに審査されるのです。

何故お坊さんが七日ごとに、お経をあげるのか？それは、亡くなった人が、「この方はこちらの世界でこんなに立派なことをされていたのですよ。これだけたくさんの人に愛されて惜しまれながら亡くなってしまったんですよ!!」ということを裁判官に伝えるためなのです。こちらの世界からも皆で、亡き人が裁判を通過できるように後押ししてあげるためです。さて、ここであなたを弁護してくださる仏さまは「弥勒菩薩（みろくぼさつ）」さま、ついにあと一つです。さぁ、「弥勒菩薩（みろくぼさつ）」さまに出会い、無事に第六法廷を通過してください。

弥勒菩薩（みろくぼさつ）

お釈迦さまが亡くなった後、５６億７０００万年後にお釈迦様に代わってこの世を救う「未来仏」として役割を命じられています。それまでは兜率天（とそつてん）という浄土の世界で未来のことを思い、人々をどうやって浄土の世界に迎え入れるか考えています。菩薩の力と如来の力で持って人間を救ってくださいます。



四十九日体験　ツアー（七七日へ）

おめでとうございま～す!!

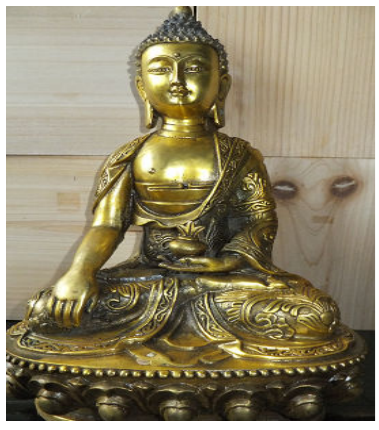
ついに「弥勒菩薩」にも出会う事ができましたね。これで、六七日の裁判も無事に通過することができます。

さぁ、あなたの眼の前には六つの鳥居（とりい）が見えてきました。この鳥居は「地獄界（じごくかい）」「餓鬼界（がきかい）」「畜生界（ちくしょうかい）」「修羅界（しゅらかい）」「人間界（にんげんかい）」「天上界（てんじょうかい）」という六つの世界か「浄土（じょうど）の世界（せかい）」と通じています。生きていた頃あなたがいる世界は「人間界」ですね。修羅、畜生、餓鬼、地獄と下へ行けばいくほど苦痛の日々が待っています。どの鳥居をくぐるのかあなたは自分自身で決めなければいけません。それを見守るのが七七日で待っている裁判官「泰山王（たいざんおう）」です。

自分で来世を決めるのですが、これは「運」次第という訳ではありません。自分で選択したつもりでも結局、前世での業、今迄（いままで）の審判によって実はその選択肢（せんたくし）は決まっているのです。これもひとえに「因果応報（いんがおうほう）」という原理が存在しているからなのです。さて、ここであなたを導いてくれる仏さまは「薬師如来（やくしにょらい）」です。さぁ、「薬師如来」に出会い最後の法廷を通過してください。

薬師如来（やくしにょらい）

左手に持っているのは薬壺（やっこ）、人々の病気を癒すための薬が入っている、人々を病気の苦しみから助けるという大願をたてて、仏になられた。



四十九日体験　ツアー

おめでとうございます!!

「薬師如来」にも出会う事ができました。これで七七日の裁判も無事に通過することができました。そして、このツアーもそろそろ終わりを迎えようとしています。

はたして、あなたが選んでくぐったその鳥居の先にどんな世界が待ち受けているのでしょうか？

本当にお疲れ様でしたね。
それでは、静明院本堂にてお待ちしております。